

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月20日

事業所名 子どもの家 すくすくえんせんたー

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1.子どもたちの状況に応じて、部屋を仕切ったり、個別での対応ができるように配慮している。 2.少人数での活動を行う時には部屋を2つに仕切って人数に合わせた空間で活動をしている。	利用定員に対する設置基準を十分満たす面積を確保しております。今後も子どもたちの様子や活動目的に合った環境設定に努めていきます。
	2 職員の配置数は適切である	○		1.状況に応じて必要な場合も多々あります。 2.個別対応が必要な特性の強い子どもへの対応が必要な時に、主活動が手薄になってしまう事があるので、職員間で密に連携を取りながらその場の見守りで児発管も入り、安全を第一に支援を行っている。 3.職員数が足りない時がある。 4.もう1人加わることで、より丁寧に支援ができるのではないかと考える。現在、児発管にも時折活動のお手伝いとして入ってもらい、個別の対応が必要なお子さんへの支援を行っている。	設置基準は十分に満たす職員数を確保しておりますが、子どもの状態に合わせた職員配置を大事にし、サービスの質の向上と職員一人ひとりのスキルアップを図っていきたく思います。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		1.段差はない。	当施設は療育用に専用設計になっております。今後も施設内の安全点検を適宜行いながら、設備・環境の整備を行ってまいります。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返りに)、広く職員が参画している	○		1.職員全員で共通理解ができるように周知しながら連携を図っている。 2.毎回、活動終了後は子どもたちの様子の振り返りや次の日の活動内容の検討を含め、職員全員で話が出来ている。	職員会議などでは法人全体で把握・改善すべき課題について、朝礼や終礼では日々の業務内容の中で気付いた課題について、情報共有を図っています。今後も職員一人ひとりが、PDCAサイクルを意識して業務改善に繋げられるよう、検討を行ってまいります。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			法人の理念や方針も基に施設の運営を行っております。今後も保護者の皆様にご協力頂いた評価表のご意見も参考にさせていただき、行事や活動内容等の見直しや業務改善に努めてまいります。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			施設の行事案内や各種お知らせ等、ホームページにて掲載しております。評価表につきましても毎年掲載しておりますので、今後も継続して取り組んでまいります。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者による外部評価につきましては、準備を進めながら計画的に取り組んでいく予定です。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		1.園内研修を行い、職員全体で支援の質の向上に努めている。 2.法人研修に加え、すくすく内でも研修を行っている。 3.園内研修をそれぞれ担当を決め、実施している。自己研鑽に努めることができているのではないかと思います。	職員全体を対象とした法人研修や、連携や個々の理解を深める園内研修を定期的に行い、自己研鑽に繋げられるよう考えております。また、外部研修への積極的な呼びかけも行ってまいります。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		1.アンケートへの記入も、さらに浸透させていきたい。 2.発達検査等も支援計画作成に活かされている。	今後も保護者や他事業所とも情報共有を行い、保護者のご希望に応じて各種検査を実施しながら、個々のニーズに合わせた支援計画作成に取り組んでいきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		1.発達段階の表やSSTの導入等で適応行動の状況を把握されていると思うが、標準化されているとは感じられない。	より客観的かつ公正な状況把握ができるよう、アセスメントツールの統一性と、個々の発達段階における職員間の共通理解を高めていきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		1.全員で話をしながら、より課題に沿った支援ができるよう意見を照らし合わせている。 2.おたより作成の際、全員で話をしながら、道具の準備を全員でしたり、学年によってのねらいを決めたりしている。	活動の立案や具体的な内容の決定をグループで行うことが更に定着していくよう、取り組んでまいります。
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1.運動面(微細運動、粗大運動)社会性、言語面の成長に繋がるよう、季節も考慮しながら活動内容を組み込んでいる。 2.週に2回、3回登園予定のお子さんには活動内容・手順を少し変更して活動を展開している。	活動プログラムは、運動面・社会性・身辺自立・言語面・理解面等から子どもたちの発達に合わせて、意欲的に取り組める内容を設定しております。それぞれの活動に目標やねらいが入っており、「楽しい」「がんばった」が実感できるように努めています。活動予定やねらいにつきましては毎月のおたよりに掲載しておりますので、ご確認をお願い致します。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		1.設定はしているが、検討や改善が必要なおところもある。 2.長期休暇の過ごし方に関してはまだまだ検討・工夫が必要かと思われる。	今年度より、土曜日開所や長期休暇期間中のスケジュールに変更がありましたので、主活動だけでなくそれ以外の過ごし方についても話し合う場を設けました。今後も話し合いを重ねる中で、改善や見直しを試みていきたいと思っております。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別活動と小集団活動のバランスを考慮しながら、計画作成に取り組んでおります。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			リーダーを中心に、グループに入る職員は事前打ち合わせで内容や準備物等を確認しております。打ち合わせが直前になることもあるため、時間管理について再確認を行い、余裕のある受け入れ体制を整備していきたいと思っております。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			打ち合わせ同様、グループに入った職員で振り返りを行っております。子どもの様子や支援内容の反省等、得られた情報や経験を次の活動に反映できるよう、職員間で共有を心掛けています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	17	○			振り返りの内容を支援や活動の記録に繋げています。主任や児童発達管理責任者とも情報共有しながら、継続して検討・改善に努めてまいります。
	18	○			相談支援事業所と連携し、定期的にモニタリングを実施しております。保護者の思いも確認しつつ、一人ひとりの状況に合わせた支援内容が検討できるように努めてまいります。
	19	○			日常生活動作を取り入れた遊びや、自然の素材を活かした創作等、子どもたちの育ちに必要となる要素を含めた活動となるよう、支援内容を計画しております。
	20	○		1.出来れば担当にも参加して欲しいが、 2.児発管が参加できる日程で調整している。	児童発達管理責任者を中心に、児童の担当職員等、現状をよく把握している職員が参加するよう心掛けています。
	21	○		1.必要な時に電話等で情報共有を行っている。 2.互いに子どものことで相談したいこと等があった時は電話で連絡をとり、情報共有を図ることがある。	必要に応じて学校教諭と電話連絡を行ったり、保護者を通して授業の様子や宿題の内容等を確認したりしています。学校によっては県民週間等で訪問し、担任教諭と情報共有を行うこともあります。
	22	○		1.看護師と連携を取っている。 2.看護師が活動に入ってもらっている。	より高度な支援が求められる場合や配慮が必要な場合は、保護者をはじめ関係機関と連携を取るよう努めています。
	23	○		1.担当者会議等で情報共有に努めているが、園や事業所によってはなかなか連携を取りにくい状況にある。	担当者会議や電話連絡等、直接情報共有できる機会を大切にしていきたいと思っております。また、移行支援シート等も活用しながら相互理解を深めていきたいと思っております。
	24	○		1.現施設が小学生までの利用のため、該当するケースはないが、他施設への移行支援には取り組んでいる。	小学生を対象として放課後等デイサービスを提供しているため、中学校等の教育機関への移行や、他施設への移行支援を中心に取り組んでおります。
	25	○		1.センター受診後の結果については確認を行っている。連携とまでは至っていないように思う。 2.事業所連絡会が1月実施予定の為、その際に助言等をいただきたい。	鹿児島県や鹿児島県通園事業連絡協議会等が主催している研修へ積極的に参加するとともに、他施設への公開療育に参加して連携を深めるように努めています。
保護者への説明責任等	26	○		1.長期休みに、法人内の学童保育の子ども達との交流の場は作っています。 2.地域交流会で学童保育の子どもたちとの交流をしている。 3.夏に地域交流会という行事を設定し、学童保育の子どもたちとの交流を深めている。	事業の特性上、個人情報に十分配慮し、法人内の学童保育(放課後児童クラブ)と交流が持てる場を適宜設定しています。
	27	○		1.法人内の他施設と協力して参加している。	法人内の療育施設と協力し、子ども部会や子ども・子育て会議等に参加しています。今後も職場内での情報共有に努め、積極的な発信に繋がりたいと思っております。
	28	○			送迎時や面談等、保護者の方と直接情報交換する場を設けるだけでなく、自分ページやホームページ等、ICTを活用した取り組みを行っております。
	29	○		1.ペアトレが十分に出来ているかは難しいが、相談支援や親子教室には力を入れている。 2.個別で保護者との相談に応じ、アドバイスを伝えている。家族支援を個別で行っている。	現在、ペアレントトレーニングの実施はしていませんが、心理職員による心理相談や子育て相談、カウンセリングを行っております。ペアレントトレーニングは、今後実施できるように準備を進めてまいりたいと思っております。
	30	○			施設の運営規定や利用者負担等につきましては、見学又は契約時にご説明をさせていただいております。引き続き、丁寧な説明を心掛けてまいります。
	31	○			相談内容によっては、別日に時間を設けて面談を行い、心理職員に入ってもらえる等の対応を行っております。
	32	○		1.年に1回、保護者交流会を設けている。 2.年に1回、保護者交流会を設けている。	5月開催の保護者交流会だけでなく、親子参加のワークショップ等を通して、保護者同士の交流や連携を試みております。
	33	○		1.苦情受付者や解決者の掲示、ご意見箱の設置等。	各相談や申し入れにつきましては、主任を窓口とし、施設・法人全体で共有できる体制を整備しております。今後も迅速かつ適切に対応できるよう、体制の整備に努めてまいります。
	34	○			法人ホームページにて、各種おたよりやお知らせを配信しております。
35	○			利用児や保護者の方々が安心してご利用いただけるよう、様々な記録や個人情報をシステム上で厳重に管理しております。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			保護者の皆様との連携を強化するために、毎月の「おたより」をはじめ、ICTを用いた連携ツールを整備しております。ご不明な点は、職員が個別対応で説明を行っております。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		1.地域住民との交流は、活動や面識に繋げる点でも課題がある。	事業の特性上、個人情報の取り扱いを厳しく行っているため、一般の地域住民の方々に施設を開放する機会はありません。地域にある施設として、事業内容や活動内容を知っていただく機会を検討していきたいと思っております。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		1.保護者も確認できるようにする。 2.保護者の方々にもマニュアル・対応方法が確認できるように掲示していく。	各マニュアルを整備しており、指揮系統のフロー図や対応の手順等をまとめて掲示しております。避難訓練の実施につきましても、おたよりや予定表にて通知しております。より詳しく保護者の方々へお伝えする手立てを検討していきたいと思っております。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		1.月に1回、子どもたちとも避難訓練を実施している。	毎月避難訓練を実施しております。災害の種類についても検討し、それぞれの災害に応じた避難場所や移動方法を、子どもたちと一緒に確認しております。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待に関する研修を定期的に法人職員全体で行っています。また、法人内に虐待防止委員会が設置されており、職員や保護者に向けた虐待防止の啓発活動に適宜取り組んでいます。今後は、虐待を未然に防ぐための啓発活動を充実させていきたいと思っております。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		1.保護者への説明は行っているが、前例もなく、計画に記載はしていない。	現在、身体拘束が必要となるケースはありませんが、今後必要性のあるケースが生じた際には、保護者への聞き取りやアセスメントを行い、事前の説明を十分に行った上で了承を頂き、計画にも明記していきたいと思っております。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			医師の診断書・指示書を保護者に提出して頂き、それを基に除去食の提供を行っております。栄養士や調理員の方々と連携を取りながら、安心・安全な給食を提供できるよう努めてまいります。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットがあった際は、朝礼や申し送り等の場で共有し、記録として残しております。